

「安心・安全を未来につなぐ、住民の期待に応える消防」を目指して

静岡市消防局長 村田 吉伸



静岡市消防局は、平成28年4月1日消防救急広域化を図り、島田市、牧之原市、吉田町及び川根本町の2市2町から消防事務（消防団事務及び消防水利設置、維持、管理事務は除く。）の委託を受け、現在1本部、2部8課、9消防署、1分署、23出張所、職員1,034人体制で88万住民の命を預かる消防組織となりました。広域化から3年が経過し、火災をはじめ各種災害による被害の軽減を図り、安心・安全に暮らせるまちづくりに積極的に取り組んでいます。

当消防局の管轄は、静岡県中央部に位置し、北に赤石岳や聖岳など3,000m級の山々が連なる南アルプスから、南は日本最深の駿河湾に至るまで約2,350km²もの広大な面積を有しており、江戸時代に「箱根八里は馬でも越すが、越すに越されぬ大井川」と唄われた東海道一の難所である大井川や、羽衣伝説の舞台でもあり富士山世界文化遺産の構成資産に登録された三保松原を始めとした美しい自然環境の宝庫でもあります。

また、運輸交通面では東名高速道路や新東名高速道路に加え、平成30年3月には日本海側から太平洋を結ぶ中部横断自動車道の一部区間が開通となり、東海道新幹線、国際拠点港湾である清水港、県内で唯一の空港である富士山静岡空港等のインフラ整備により陸・海・空の拠点として、更なる発展が期待されているところです。

防災面においては、甚大な被害が予想される南海トラフ巨大地震の発生が危惧されており、日頃から多数の者が利用する防火対象物の防災対策を徹底させるとともに、広域化による各市町災害対策本部との連携を重視し、タブレット端末の配備などによる迅速且つ的確な対応に取り組んでいます。

静岡市はアジア唯一のSDGsハブ都市として、「世界に輝く『静岡』の実現」をテーマとした第3次総合計画（2015年度～2022年度）を平成27年度からスタートさせ、世界水準の都市への飛躍に向けて、この地に住む人々が誇りを持ち、訪れる人々が憧れを抱くまちを目指しており、消防行政においても常にSDGsを意識した継続可能な未来につなぐ施策に取り組んでいます。

その一つとして、2018年に「静岡市消防局中長期ビジョン」を策定し2027年までの達成目標として、女性消防吏員の増加を始めとした6つのビジョンを掲げ、全職員が共通認識を持ち一丸となって取り組むこととしており、総務省消防庁様の御協力により「消防は女性が輝けるフィールドだ」を合言葉に、ラッピングバスの運行など新たな施策を展開しております。

今後も、安心・安全を未来につなぐ、住民の期待に応える消防を目指し、「天・地・人」を信条に、全職員一丸となって業務に取り組んで参ります。